

特集 創意ある授業を生み出す楽しみ



創意ある実践のために

新しい学習指導を考える会

一 教科書と教師

教科書は、授業を構成する中心的な素材であり、ある意図のもとに教材や単元が構成されている。教師は指導書などを参考にしながら、その配列に導かれて指導していけば、一定の成果を得つつ指導を完結することができるようになっている。

しかし、教師にはそれぞれ経験によって培われた得意業もあり、指導の対象たる子どもたちもそれぞれに異なる特性を有している。そこに教材や単元の構成を変形・加工したり、創意ある多様な指導法を試みたりする必然性が存在するのである。

二 本冊子を活用するにあたって

国語教育に携わっている多くの教師の声として、「授業時数が減り、従来の計画や方法では指導できない。」「『複合単元・総合単元』、『自分で選んで』の扱いが難しい。」という指摘が聞こえてくる。

それらを受け、本冊子では時数縮減の影響をもっとも強く受けている『読むこと』の単元の事例」と、指導に苦慮しているという声の多い『複合単元・総合単元』の事例、『自分で選んで』の事例を数例ずつ示すこととした。

もとより、ここに示した事例が最善・最適というわけではない。子どもたちの実態や指導者たる教師の理念や技術に授業は左右されるものである。読者諸氏においても所収の事例を一つのヒントにしながら、目の前の子どもたちの実態、各先生方の教材・単元への思いやこだわり、得意業などを大切にして、創意ある実践を構想・展開していただきたい。そこに教師という職業の楽しさもあるのである。

最後に、所収の事例の中には、筆者の構想段階のものも含まれていることをお断りしておく。